

策定年月	令和6年4月
見直し年月	令和7年11月

麦・大豆国産化プラン

産地名：観音寺市

（作成主体：観音寺市地域農業再生協議会）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

麦・大豆生産の現状と課題

【麦】

○需給のミスマッチ

【麦・大豆】

○年産毎の単収・品質が不安定

○連作障害による減収品質低下

課題解決に向けた取組み内容

【麦】○需要が見込まれる麦種・品種の導入、需要開拓、利用促進

○排水対策の徹底、適期播種・適期収穫、土づくり等

○水稻との二毛作、湛水処理の推進

【大豆】○作付け拡大による需要量の確保

○排水対策の徹底、病虫害防除の徹底等

課題解決の対応と今後の生産拡大に向けた方針

小麦は、県内の日本麺用の現行品種「さぬきの夢2009」から今般、うどんの食味が良好で加工適性を持つ後継品種である「さぬきの夢2023」が開発され、実需者評価も良好であることから、現行品種からの早期転換を進める。新品種導入によって「さぬきうどん」、「小豆島素麺」の外麦原料からの県産麦への転換により、生産拡大に向けて環境を整える。

麦・大豆生産技術向上事業の活用等により、コンバインや乗用トラクター等の能力増強を進め、収量・品質の高位安定化に向けて栽培基本技術である乾田対策や適期収穫の徹底を図るとともに、作業の効率化により作業スケジュールを改善し二毛作や湛水処理の推進を図ることで連作障害を防ぐ。また、稲わらの積極的なすき込み、土壌改良資材の施用による土づくりを進める。また、地域計画や農地中間管理事業との連携を強化し、地域の話し合いにより担い手に農地を集積して作付け拡大を図り、実需者の求める麦類生産を強化する。

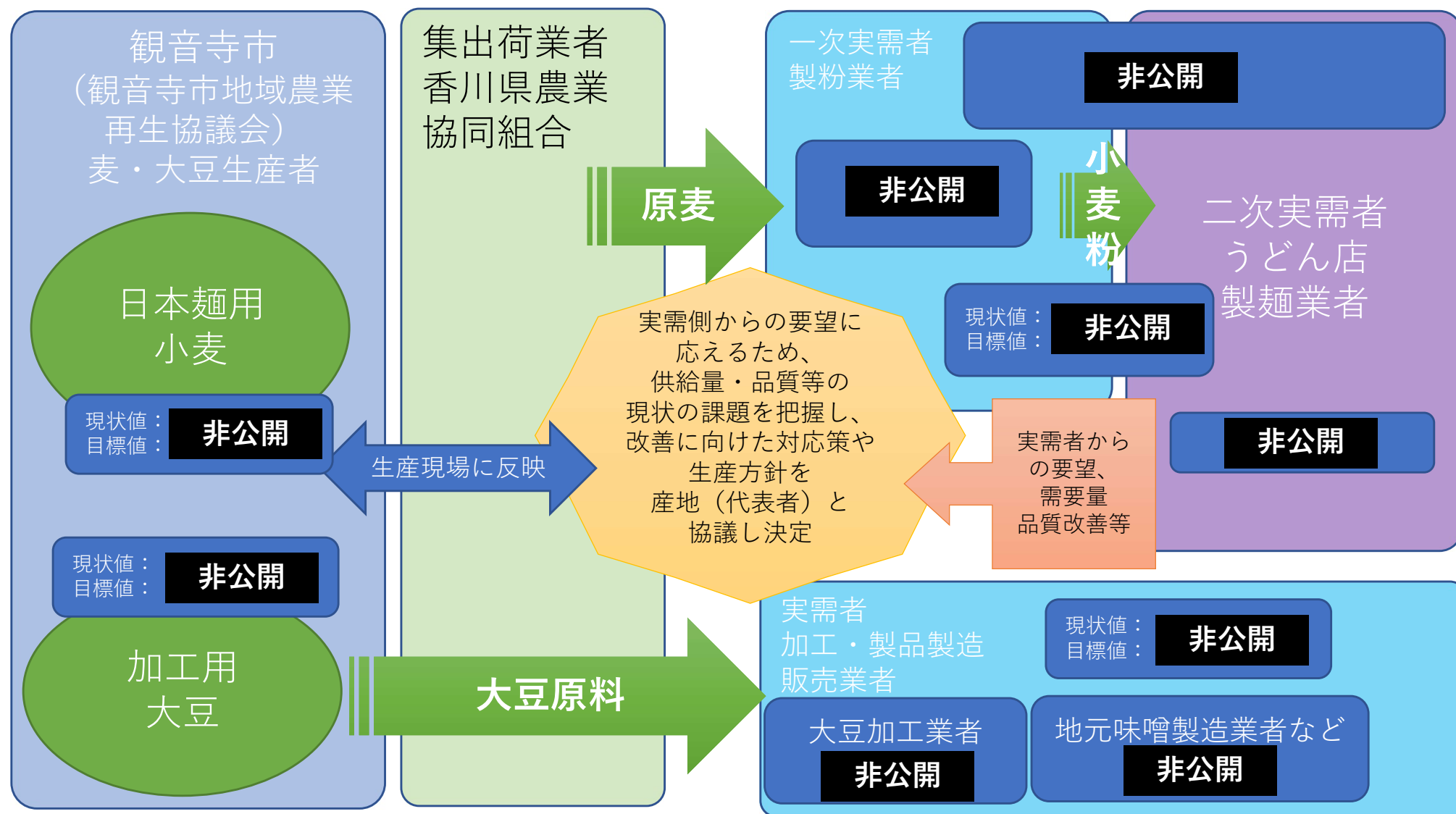
大豆は、地域内の加工・製造販売業者からの要請を受けて、一部生産者が大豆栽培に取り組んでおり、地域内流通の仕組みが整いつつある。業者からの取引数量の引き合いが徐々に増えつつあり、生産現場では生産拡大に向けて体制整備が必要となっている。

品質・収量の安定化に向けて湿害回避のため額縁明渠の設置で排水対策を行い、ヨトウムシ、カメムシ、紫斑病防除を実施して、栽培基本技術の励行や適期収穫を徹底するために、本事業を活用してコンバイン等の能力増強を進め作業の効率化を進める。地域として将来的に需要量がさらに拡大すれば、現生産者をオペレーターの核として作業の請負体制を整えることで生産拡大を図っていく。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

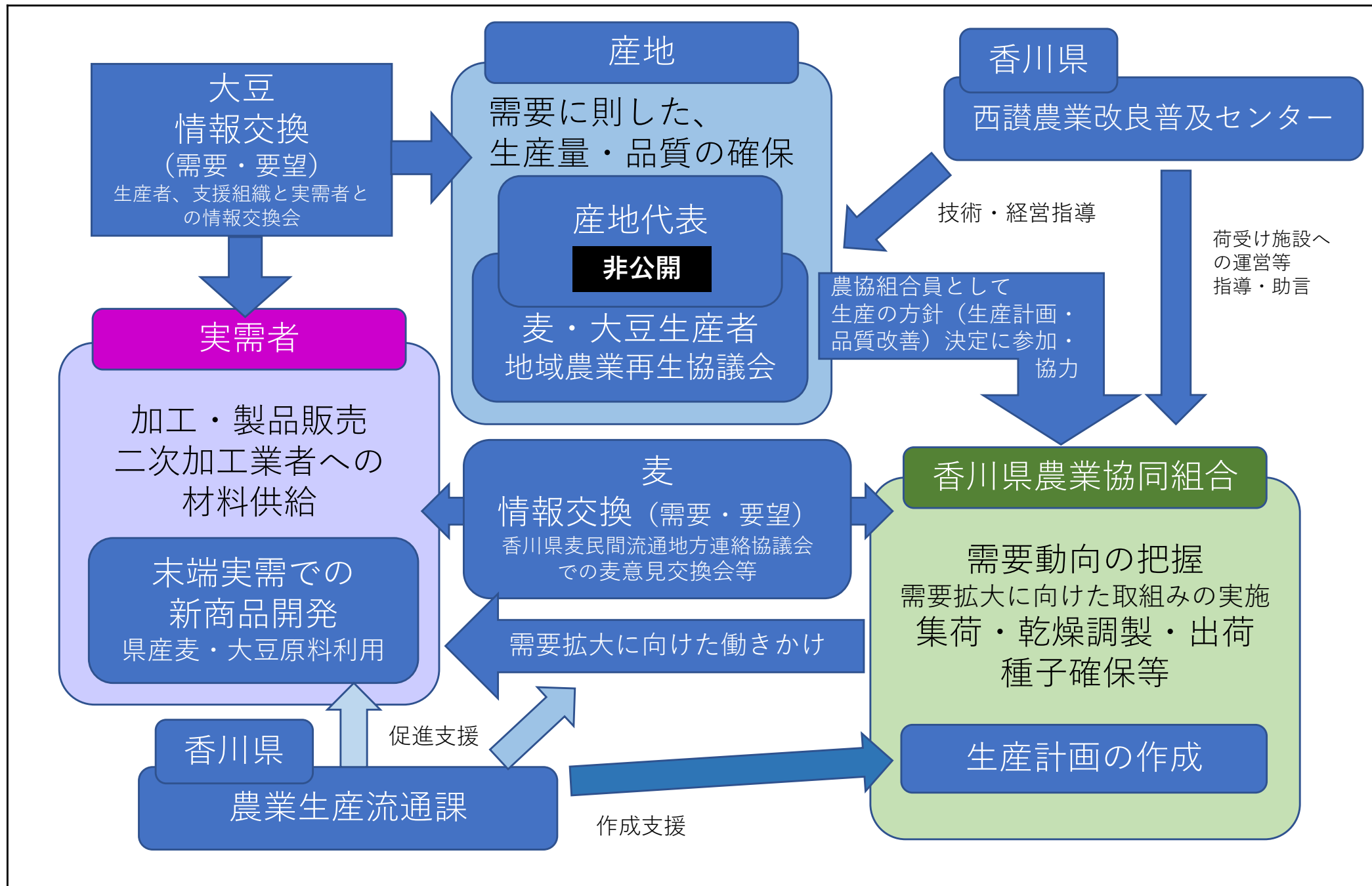
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。